

下原委員（草莽の会）

平成 30 年 3 月 7 日  
教育長答弁実録  
(教育委員会)

(問) 本県教育への思いについて

下崎教育長は、退任に当たって、これまでの本県教育についての思い、また、感慨深い思い出などがあれば、併せて教育長に伺う。

(答)

私が就任いたしました平成 23 年度には、すでに、広島県の教育はかつての「教育県広島」と呼ばれた水準にまで回復してきており、本県教育が更なる飛躍を目指す時期であったと認識いたしておりました。

こうしたことから、子供たちが将来の夢を描き、自律した社会人として、国内はもとより、世界で活躍できるような『人づくり』に向け、『広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現』に向け、様々な施策に取り組んでまいりました。

特に、平成 26 年 12 月には、「『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、全国に先駆けて、グローバル化する 21 世紀の社会を、子供たちがたくましく生きていくための資質・能力の育成を目指すため、「課題発見・解決学習」や「異文化間協働活動」などを推進してまいりました。

この間の、感慨深い思い出といたしましては、

- ・ 特別支援学校における「技能検定」の実施、
- ・ すべての県立学校と海外 15ヶ国、128の学校との姉妹校提携、
- ・ 広島創生イノベーションスクールの実施、
- ・ 本県での全国高等学校総合文化祭、総合体育大会の開催、
- ・ 3千人を超えます児童・生徒の教育長室への訪問

などにおきまして、いきいきと活動し、成長していく子供たちと触れ合うことができたということが、最大の喜びでございました。